

馬車鉄道

昭和五十九年七月五日号

明治二十二年東海道線鈴川駅が開駅。翌二十三年鈴川駅から大宮町（富士宮市）まで馬車鉄道が開通しました。

馬車鉄道は、道路に敷いた線路の上を、馬車で人や荷物を運び、当時の人々の貴重な交通機関の一つでした。

当時の最新式交通機関

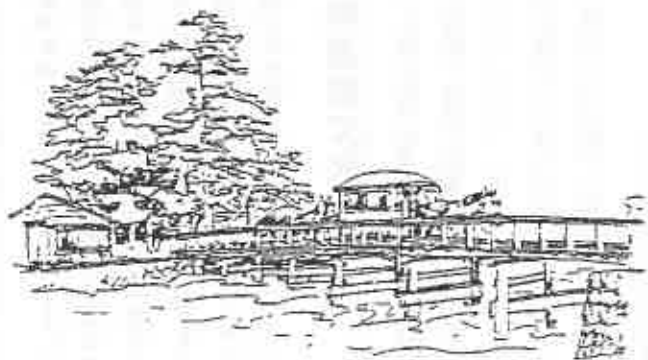
鈴川駅を起点として吉原、伝法、入山瀬を経由して大宮町（現富士宮市）に至る馬車鉄道が開通したのは明治二十二年六月でした。

馬車鉄道とは、六人から十人ほどの客を乗せる小さな箱型の車を馬が引っぱったもので

す。手綱で馬を操る馭者を別当と呼んだそうです。

そして、ところどころに「すれ合い」と言つて、馬車が相互に行き交うために四本の軌条を敷いたところがあり、手を上げて合図をすれば、途中どこでも止めてくれる便利な乗り物だったようです。

しかし、当時の人々の重要な交通手段であった馬車鉄道も、富士身延鉄道の開通など、文明の進歩とともに大正の末に廃止されました。



懐かしい乗り物だね

大古田利良さん（今泉）

今泉に住む大古田利良さんは「私が乗ったのは十四・十五歳くらいのとぎだつたかね。新橋から鈴川の駅までたしか十銭だつたかな…。」

いまの自動車と比べると、とてもものんびりしていたね。

ちやうど人が小走りに走る速さと同じくらいだつたかね」と語ってくれました。